

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 25 年度	学位名	修士(工学)
専 攻	知能機能システム	専攻	著者氏名 鄭 立儀
指導教員氏名 宇津呂 武仁			
論文題目 ウェブ上の情報空間における日中二言語間差異の分析			
論文概要 <p>現代の情報社会においては、情報の氾濫、すなわち、いわゆる情報爆発が起こっている。そして、そのように爆発する情報の集約や、俯瞰をするための技術の開発が強く望まれている。中でも、情報爆発が最も顕著に現れているのはウェブである。更に、このグローバル社会における出来事の根底には、各国特有の歴史的背景や文化的特異性が根強く横たわっている。本研究においては、各国特有の歴史的背景や文化的特異性を同定するために、ウェブ上の情報空間における多言語(日本語・中国語)間での比較・対照分析することにより、言語間の差異を発見するというアプローチをとる。特に、本研究では、(1) ウェブ執筆者の関心动向、及び、(2) ウェブ検索者の関心动向に着目し、研究を行った。</p> <p>(1). ウェブ上の情報の一例として、近年、一般個人が自由に情報を発信するツールであるブログが世界中で普及し、各地域の人々がそれぞれインターネット上で個人の意見や評判を発信することが可能になった。それに伴い、様々な情報がブログに記載され、様々な人々の意見や評判がウェブ上に氾濫するようになった。本研究では、日中ブログを情報源として、国・文化・言語間の差異発見過程を支援する方式を提案する。</p> <p>(2). (1)の研究では、ブログにおける言及数の多少によって、関心の度合いや関心の動向を把握していた。しかし、「尖閣諸島」等の時事的話題のように、時間的変遷が急激な場合には、ブログ等における言及数の動向が収束し関心の動向や度合いが把握できるまでの間に遅延が生じ、関心动向の迅速な把握が困難であった。この遅延を克服するために、本研究では、発想を転換し、ブロガー等のウェブ執筆者の対極に位置するウェブ検索者が、報道等の一次情報に対して行う検索行動に着目する。そして、ウェブ検索者の情報要求観点を直接収集することによって、ブログにおける言及数を情報源とする場合の遅延を克服でき、関心动向を迅速に把握する。一方、時間的変遷が緩やかな文化・慣習に関する話題の場合も、ウェブ検索者の情報要求観点からしか収集できない関心の動向や度合いが多数存在する。そこで、本研究では、日中検索エンジン・サジェストを情報源として、ウェブ検索者の情報要求観点を収集し、他国と自国との間の文化・関心・意見の違いを発見する過程を支援する方式を提案する。</p>			
審査日 平成 26 年 1 月 30 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 教授	博士(工学)	宇津呂 武仁
副査	筑波大学 教授	工学博士	白川 友紀
副査	筑波大学 教授	工学博士	丸山 勉